

Living with SFC Macintosh

2007 Spring Version

箕原辰夫

■システムの構造

MacOS : $\kappa \varepsilon i o$ の特別教室とメディアセンターには、Mac OS X 10.4 (Tiger)、 $\lambda 21$ 教室にはMac OS X 10.3.9 (Panther) が搭載されています。Mac OS Xは、内部ではUnixベース (BSD4.4+Mach Kernel) であるが、 $\lambda 21$ では今までのソフトウェアを動かすために、MacOS 9.2がClassicモードで動きます。マルチユーザモードになっているため、大学のアカウントを入力すると自動的に、Unixサーバー側のフォルダ (ディレクトリ) がマウントされます。



Netboot : SFCのMacintoshは、ローカルなハードディスクに最小限のシステムを持っている場合と全く持っていない場合があります。後者の場合は、ネットワークを介して、サーバーのコンピュータ (MacOS X Serverが動いている) から、システムをネットワークでファイル転送して、立ち上がります。また、アプリケーションなどについても、NetworkInstallを用いて、统一的にメンテナンスされています。

■ハードウェア

マウス : 光学的なマウスになっています。ボタンは1つで、クリックやダブルクリックだけではなく、ときには、Controlキーを押しながらクリックしたり、Optionキーを押しながらクリックしたりもします。Controlキーを押しながらクリックは、コンテンツメニューを出すのに主に使われます。 $\kappa \varepsilon i o$ の特別教室のマウスでは、真ん中のスクロールボタンと、左右のクリックを分けることができます。

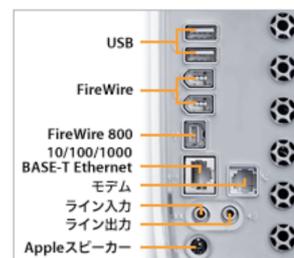


キーボード : Macintoshには、アップルマークあるいは4つ葉マークのついたキーがあります。コマンド (Command) キーとして知られていて、結構使います！それ以外のキーはほぼ標準と同じです。右上の方に、CD/DVDのイジェクトボタンがあります (上向き△がついています)。音量などをコントロールするキーもあります。

液晶ディスプレイ : 解像度などを、「システム環境設定」アプリケーションの「ディスプレイ」から変更することができます。ほぼどのような解像度のディスプレイにも対応することができます。ディスプレイの電源や、調整ボタンは、ディスプレイ専用で本体とは関係ありませんので注意してください。

ドライブ : CD/CD-R/CD-RWおよび、DVD/DVD-Rを用いることができます。Panasonicなどの規格であるDVD+Rには対応していないかも知れないので注意してください。市販のCDやDVDソフトも楽しめ、iTunesやiDVDなどを使って、CD-RおよびCD-RW、DVD-Rに焼くこともできます。

電源 : 電源立ち上げのボタンが用意されています。電源を落とす場合は、Finder (切り替えるにはデスクトップをクリックする) の「アップル」メニューからシステム終了を選びます。自動的に電源も切れます。電源ボタンは、一時的なスリープにも対応していますが、 $\lambda 21$ ではネットワークの接続で問題が発生する可能性もありますので、基本的には、電源関係をいじることはないと思ってください。



コネクタ : USB、FireWire、FireWire800、Ethernet、Modem、アナログ音声ライン入出力、Apple Pro Speaker用のコネクタが背面に用意されています。

■ログイン・ログアウト

起動すると、ログイン画面になっていますので、ここでSFCでのユーザアカウント、パスワードを入力しますと、Macintoshを使えるようになります。この環境では、デスクトップなどを自分用にカスタマイズしても、他の人に影響をあたえることはありません。また、ログインの際に、自動的にSFCのフォルダが以下の場所にマウントされます。



ユーザ（またはhome）→自分のログイン名のフォルダ→CNSMac（λ21）

ユーザ（またはhome）→自分のログイン名のフォルダ→CNSiMac（κ ε ι οの特別教室）

ユーザ（またはhome）→自分のログイン名のフォルダ→MCMac（メディアセンター）

ですから、ホームフォルダのパスは次のようになります。Macでは、通常/Usersが使われますが、SFCでは/homeが使われます。これでCNSのホームフォルダを指定できます。

/home/自分のログイン名/

作業を終了したら、必ずログアウトしてください。そうしないと、席にいないときにやってきた他の人が、個人用のファイルをアクセスできてしまいます。ログアウトは、水色のアップルメニューから行ないます。

アップルメニュー → ログアウト（Shift+Command+Qでも可能）

確認のダイアログが表示されますので、「ログアウト」ボタンを押してください。電源は落とさなくてよいとのことです。液晶ディスプレイは、自動的にオフになります。

■Mac OS Xの新しいFinderについて



Finderは、Macintoshユーザがこよなく愛するユーザとのインターフェースになっています。1つのアプリケーションとして動いています。画面全体はデスクトップと呼ばれ、机の上の文房具などのメタファとして最初はできてきましたが、Aquaという美しいグラフィックインタフェースをベースとして、独自の進化を遂げました。DockとFinderが、いろいろな作業の手助けをしてくれます。

■ディスク（あるいはドライブ）について



MacintoshHDディスク：システムに関する内容がはいっています。次のようなフォルダ構成になっています。パスで標記する場合は、System、Library、Applicationsなどの英語名を使います。

- ・システム…Mac OS Xのオペレーティングシステムに関するファイルが入っている
- ・ライブラリ…共通のフォントや、各プログラミング言語で用いることができるファイルが入っている
- ・アプリケーション…アプリケーションがいろいろ入っている
- ・ユーザ…各マシン上でのユーザに関してのファイルが入っている
- ・Developer…プログラミング開発に関するツールやドキュメントなどが入っている

Workディスク：映像ファイルなど、大きなサイズのファイルを一時的に保存するために用います。保存したファイルは、権限管理の関係から、保存した人以外は消せないようになっています。使わなくなったファイルは、い

つまでも残しておかないで、すぐに削除してください。他の人が映像などを保存できなくなります。

Homeディスク：ネットワークのファイル共有機能を用いてマウントされているCNSのホームフォルダとして「CNSHomeなにがし」のような名前のフォルダがデスクトップ上に置かれています。このディスクの中に、CNSiMac、CNSMac、あるいはMCMacという名前のフォルダがあります。このフォルダに、MacOSXを使うときの情報が格納されます。これが、一般のMacOSX上でのホームフォルダに対応します。このように、特別教室とλ21とメディアセンターは、歴史的事情からそれぞれ別の場所がホームフォルダになるので注意してください。現在アクティブになっているホームフォルダは、家のアイコンがつけられています。

■ウィンドウの操作

★ウィンドウのボタン

タイトルバー…ドラッグで移動、ダブルクリックでドックへ退避

赤ボタン（X）…クローズ（ウィンドウが破棄される）

黄ボタン（—）…ドックへ退避

緑ボタン（+）…最大サイズあるいは適正サイズにウィンドウの大きさを調整

右上のボタン…Mac OS 9のようなウィンドウ操作にする（サブフォルダを別ウィンドウに開く）

右下の斜線…ウィンドウの拡大・縮小

★フォルダナビゲーションと、フォルダウィンドウのツールバーのボタン

フォルダアイコンをダブルクリックしていくと、そのフォルダの内容をウィンドウに表示してくれます。

戻る・進む…MacOSXでは、フォルダを開いていくと、同じウィンドウに開くために、1つ前に開いたフォルダに戻りたいとき、再び最後に開いたフォルダに進みたいときに使います。

表示…アイコン、リスト、カラムの3つがあります。リスト表示では、横向き▼ボタンを押すと下位フォルダのファイルを見ることができます。カラム表示の場合は、画像などのファイルを選ぶと、プレビューを表示してくれる場合があります。

コンピュータ、ホーム、よく使う項目、アプリケーションなど…該当のフォルダに移動、アイコンをドラッグすることで、フォルダをこのバーに登録することができます。バーから外にドラッグすると外すことができます。

検索…フォルダにあるファイルの名前を入れて探せます。名前を入れてreturnキーを押します。検索されたファイルは、上部に候補が表示されます。下部に、候補のアイコンのどれかを選択したら、どこにあるかを示す階層構造図を示してくれます。なお、この検索はMac OS X 10.4以降はSpotlightと呼ばれていますが、自分のファイルを検索したい場合は、CNSiMacなどのホームフォルダ以下のファイルしか検索してくれません。

フォルダウィンドウのタイトルバーでCommandキーを押しながら、タイトルバーをクリックすると、そのフォルダに至るまでのパスをメニューで表示してくれますので、上位のフォルダを開くことができます。Optionキーを押しながらクローズボタン（赤）を押すとすべてのフォルダウィンドウがクローズします。

★表示の設定

「表示」メニューの「表示オプションを表示」で、アイコンの大きさなどを変えることができます。リスト表示では表示する項目を変えることがあります。アイコン表示のときに、「グリッドに沿う」をチェックしておくと、グリッドに揃うので便利です。また、「表示」メニューの「整頓する」を行なうとグリッドに揃います。

★ファイルの選択、複製、移動、フォルダの作成、名称変更、削除

アイコンをクリックで選択、ダブルクリックで開き、ドラッグすると移動になります。ファイルのアイコンを移動先のフォルダがある上位のフォルダのアイコン上に持っていくと、自動的にフォルダの内容が開いてくれます（スプリングフォルダ・スプリングウィンドウと呼びます）。

異なるディスク間でファイルやフォルダのアイコンをドラッグすると移動ではなく、コピーになります。あるいは

は、Optionキーを押しながら、別のフォルダにアイコンを移動すると、コピーになります。

ファイルの選択しておいて、Command+D（あるいはファイルメニューの「複製」）を押すと、同じフォルダに、そのファイルをコピーを作ってくれます。

あるフォルダの中に更にフォルダを作りたい場合は、フォルダウィンドウの中で、Command + Shift + N（あるいはファイルメニューの「新規フォルダ」）を押します。

フォルダやファイルの名前を変える場合は、アイコンのファイル名のところに持って行って、一回クリックすると、ファイル名を変更できる四角形（テキストフィールド）が現れて、ファイル名を変えることができます。

削除は、アイコンをドック上のごみ箱へドラッグインします。Finderメニューでごみ箱を空にすることができる。

CDやDVDを取り出すときやネットワーク上でマウントしたフォルダをアンマウントするときも、それを示すアイコンをごみ箱へドラッグインします。このときは、ドックのごみ箱アイコンが、イジェクトを示す△に変わります。キーボードによっては、そのような取り出しボタンがあるものともないものがあります。ある場合は、キーボードの上部に△キーがあります。

★エイリアス

アプリケーションが入っているフォルダを開くのが面倒な場合や、かなり下のフォルダにファイルがある場合は、エイリアスを用意します。エイリアスとは、実体はないが、実体のファイルがどこに置いてあるかの情報を持っており、エイリアスファイルをダブルクリックすると実体のファイルを開いたのと同じになる便利なファイルです。

ファイルやフォルダのアイコンをCommand+Optionキーを押しながらドラッグすると、エイリアス（実体ではなく指し示すファイル）を作ってくれます。あるいは、アイコン選んでおいて、ファイルメニューの「エイリアスを作る」を選んでも同じことができます。

★アプリケーションの位置と起動

アプリケーションは、アプリケーションフォルダのそれぞれのフォルダの中に入っています。アプリケーションのアイコンをダブルクリックしますと、アプリケーションが起動されます。また、特定のアプリケーションで作られた書類をダブルクリックすると、該当するアプリケーションが起動され、自動的にその書類をウィンドウとして開いてくれます。

★ファイルダイアログ

アプリケーションの中から、ファイルを開いたり、新規に作成・保存したりするときに使います。カラム表示されていますので、スクロールバーのスライダーを左に移動させると、上位のフォルダをみることができます。特定のフォルダをクリックして選択するとそのフォルダの中を開いたりすることができます。

上部には特定の登録されたフォルダ（たとえばデスクトップなど）に移動するためのポップアップメニューが用意されています。また、「新規フォルダ」ボタンで、フォルダを作ることもできます。「よく使う項目に登録」のボタンを押すと、それがポップアップメニューに登録されます。この項目は、ホームフォルダ（特別教室ではCNSiMacフォルダ）の以下のフォルダにエイリアスとして登録されているものです。

/home/ログイン名/CNSiMac/Libraries/Favorites

■ドックを利用したアプリケーションの起動、切替え

MacOSXでは、下部に配置されているドック（Dock）に、いくつかのアプリケーションのアイコンが並べられて登録されていて、これが、Windowsのスタートメニューと同様の役割を果たしています。アイコンを選ぶと、そのアプリケーションが起動します。



MacOSXのアプリケーションでは、多くのアプリケーションが、起動すると何らかのメッセージダイアログを表示したり、ドキュメントや作業のウィンドウを表示したりします。ただし、アプリケーションが立ち上がっても、ウィンドウの類がまったく表示されず、上部のメニューバーだけが変更されるアプリケーションもあります。ドックを見ると、起動されたアプリケーションのアイコンの下には、黒い▲がついていることがわかります。

★アプリケーションメニュー

アップルメニューのすぐ右のメニューが、アプリケーションメニューになっており、起動されたアプリケーションあるいは、現在選択されているアプリケーションの名前があります。このメニューには、たいてい、そのアプリケーションの情報をダイアログで表示させたり、アプリケーションを終了させたり、環境設定をしたり、一時的にそのアプリケーションのウィンドウを隠したり、他のアプリケーションに切り替えたりする（サービスという名前のサブメニューになっています）項目が入っています。

★アプリケーションの切替え

起動された別のアプリケーションに切り替えるには、ドック上で別のアプリケーションのアイコンをクリックするか、別のアプリケーションのウィンドウが見えている場合（重ねられた下にちょっと見えているだけでも構いません）は、そのウィンドウをクリックします。あるいは、Command+TABキーで起動されているアプリケーションの一覧がでます。TABキーを押すたびに切り替えることができます。

Windowsユーザが一番はまりやすいのが、アプリケーションの切替えです。アプリケーションが切り替えられても、いつでもウィンドウが出てくる訳ではないので、いつもメニューバー上の、アプリケーションメニューに注目してどのアプリケーションが前面にあるのか把握しましょう。

★ドックへの登録

アプリケーションのアイコンをドック上にドラッグすると、ドックに登録することができます。また、ドック上のアイコンをドラッグして、デスクトップ上で離しますと削除することができます。ドック上のアイコンをクリックして、しばらく離さないでいると、メニューがでできます（Finder上に表示するなど）。

MacOSXのドックは、Windowsのタスクバーに替わる機構になっていますが、同じアプリケーションは一度に一つしか起動されません（WindowsやUnixのコマンドは、複数回起動できます）。

ドックの分割線の右側には、アップルのページを見るアイコンと、ゴミ箱アイコン、そしてウィンドウのタイトルバーの黄色のボタン（一）で、一時的に退避されたウィンドウが並んでいます。

ドックの分割線上をドラッグすることで、ドックの大きさを変えることができます。また、ドックの動きについては、「システム環境設定」アプリケーションのDock項目でカスタマイズすることができます。あるいは、アップルメニューの「Dock」サブメニューからも、設定を変えることができます。

Mac OS XでもMacOS 9と同じようなアプリケーションメニューが欲しい人は、X-Assistというアプリケーションが出ています。これは、メニューバーの再右端に、MacOS 9と同様の機能を持つ、アプリケーションメニューが用意され、このメニューでアプリケーションを切り替えることができます。

■Finderその他

★情報を見る、名前を変更する

フォルダやファイルのアイコンを選んで、ファイルメニューから「情報を見る」（あるいはCommand+i）で、ファイルサイズやその他の情報を見ることができます。また、この情報ダイアログで、所有権とアクセス権を制御できます。名前をかえるときなども、ここを見ると良いでしょう。

情報ダイアログで、ドキュメントファイルの場合は、「このアプリケーションで開く」の項目で、アプリケーションを指定したり、類似したドキュメント全体に対して、アプリケーションを指定したりすることができます。なお、「このアプリケーションで開く」は、ファイルメニューにもあります。

★画面のスナップショット

画面全体のスナップショットをPDF形式の画像ファイルにしたいときは、Command+Shift+3
ある特定領域のスナップショットPDF形式の画像ファイルにしたいときは、Command+Shift+4
→デスクトップに、「ピクチャn」という名前のファイルができます。nは、数字です。

■システム環境設定を用いたカスタマイズ

パーソナルの段の項目で、個人的な環境を設定することができます。

ハードウェアの段の項目で、周辺機器の調整をすることができます。

ネットワークの段の項目で、ネットワークに関する情報を得ることができます。

特に使うのは、以下のようなものです。



パーソナル：Dock…ドックの効果を变えます。

パーソナル：一般…スクロールアローの配置や、最近使った項目を覚える数を変えます。

パーソナル：言語環境…優先される言語や、キーボード入力メニューを変えます。

ハードウェア：ディスプレイ…モニターの解像度、色深度、カラー調整をします。

■テキストエディットと多言語入力について

★テキストエディットについて

ドックから、テキストエディットを立ちあげてみましょう。これは、MacOSXで使われるもっとも汎用エディタです。TEXT形式、HTML形式、RTF形式（MSWordのドキュメント交換形式）のファイルを保存したり、読み込むことができます。しかも、テキストエディットだけが、多言語入力や異体字入りにフルに対応しています。



★多言語入力について

Command + Spaceで、順番に言語スクリプトが入れ替わります。メニューバーにも、言語スクリプトメニューがあります。各言語スクリプトの国旗やマーク（ことえりという日本語入力システムの場合、「あ」や「A」など）が表示されるので、現在どの状態であるか解ります。

日本語や中国語のときは、メニューバーの鉛筆メニューが別に表示されます（Mac OS X 10.3の場合）。このメニューにいろいろな補助機能があります。Mac OS X 10.4以降は、スクリプトメニューの中に補助機能のメニューが組込まれるようになりました。

システム初期設定の、パーソナル：「言語環境」のキーボード入力メニューで、言語スクリプトメニューに表示する言語を選択することができます。

★文字パレットの表示について

Unicodeについて、いろいろな文字コードを表示する機能があります。言語スクリプトメニューから、「文字パレットの表示」を選びます。

★特殊文字入力について

英語系のスクリプトのときは、特殊な欧米の文字も入力できます（英語フォントにしておくこと）。キー配列などのアプリケーションを利用して入力方法を覚えることができます。言語スクリプトメニュー

★フォント

フォントは、例えばテキストエディットでは、フォーマットメニューのフォントサブメニューで、「フォントパネルを表示」で、どのようなフォントが入っているのか一覧を見ることができます。10.4からは、FontBookというアプリケーションも用意されています。

★その他の入力システムについて

EGBridgeやATOKなど、日本語入力システムが市販されています。これらの入力システムでは、同じ意味の漢字で形が違う文字のことを「異体字」と呼びますが、異体字を入力することも可能です。ただし、異体字を表示できるアプリケーションでないと表示できません。テキストエディットなど、Apple社のソフトウェアはだいたい対応しています。

■プリントアウト

プリンタは、プリントセンター（アプリケーションフォルダの下のユーティリティフォルダに入っています）で、新しいプリンタを登録したり、標準のプリンタを選ぶことができます。特別教室には白黒のプリンタや、λ21には、カラーのプリンタ（QMS製）があり、そこに出すことができます。また、別の特別教室のPostScriptプリンタを選ぶことができます。



PostScriptとは？→プリンタ用のコマンドが書かれたファイル形式のことを指します。SFCのほとんどのプリンタがこれに対応しています。ただし、ファイルサイズは大きくなる場合が多い。また、品質も高いのですが、プリンタの値段も割高になります。

プリンタ出力は、アプリケーションのファイルメニューから、ページ設定をしてから、プリント（Command+Pでも可能）を選びます。プリントのダイアログの中で、出力する相手先のプリンタを選びます。

プリントダイアログ上で、別の特別教室の教室はmonoprn（κ〜ο）、およびnps5（λ18）、nps10（λ11）、nps13、nps14などの白黒のレーザープリンタを選択することができます。また、教室内にあるカラープリンタは、color4になっています。別のカラープリンタとして、color1もあります。どこにあるかは、自分で探してみてください。これらのプリンタは、課金対象となります。

以上のプリンタは、標準でダイアログ上のポップアップメニューに入っています。それ以外のプリンタを探求したいときは、このメニューの一番下の「プリンタリストを編集」を使います。

PDFとしてプリントする方法もあります。このときは、プリントのダイアログで、「PDFファイルとして保存」を選びます。フォントなども自動的に埋め込んでくれますので、レイアウトされた文書を交換した場合に便利です。また、「プレビュー」ボタンは、一時的なPDF形式のファイルを作り、プレビューという画像ファイルなども見れるアプリケーションを起動します（設定によってはAcrobat Readerが起動されます）。

■ネットワーク

AppleShare (AppleShare IP) あるいはファイル共有 : ネットワークを介してファイルを共有する仕組みです。
AppleTalk : Macintoshで用いられているネットワークのプロトコル、SFC内外のMacにアクセスできます。



.mac : Appleが用意したインターネット上のサービスです。メールアカウント、ホームページをおくことができる。また、iDiskというサービスでは、どこでも自分のMacにネットワークドライブとしてマウントすることができます。60日間無料で使えます。SFCではサポートしていませんので各自の自己責任で利用するようにしてください。

■メールの設定

SFCのメールを読むために、Mac OS X標準のMailというアプリケーションが利用できます。ただし、これはSFCでサポートしていないので、各自の自己責任で使うようにして下さい。Mailでは、以下のようにして設定してください。この設定を間違えると、メールの受信がおかしくなります。



Mailでは、使い始めの最初に設定のアシスタントがでてきますが、無視して、キャンセルしても結構です。このアシスタントでは、詳細な設定ができない場合があります。

Mailメニューから、環境設定選びます。出てきたダイアログのツールバーで、「アカウント」を選んでください。ここで、「アカウント追加」を選びます。

アカウント情報で以下のように設定します。

アカウントの種類 : POP 2005年度以降の入学生はIMAPにしてください

説明 : 各自で入力してください

メールアドレス : ログイン名@sfc.keio.ac.jp (ログイン名の部分は自分のログイン名を入れます)

氏名 : 卒業するまで、この欄は変えないようなものを入力してください

受信用のメールサーバ : mail.sfc.keio.ac.jp

ユーザ名 : ログイン名

パスワード : この欄は入力しないようにしてください。そうしておきますと、毎回受信のときに、尋ねてきます。SFCでは頻りにパスワードを変えますので、毎回尋ねてもらおうようにしておきます。

送信用メールサーバ : サーバを追加などで、smtp.sfc.keio.ac.jpを追加して、それを選びます

詳細で以下のように設定します。

「メッセージ受信後にメッセージのコピーをサーバから取り除く」のチェックマークを外します。

最後の「詳細」タグ (ペーンと呼ばれます) のチェックマークを外さないと、POP設定したMailで受信してしまうと、他のコンピュータでは、同じメールが受信できなくなってしまいます。必ず外してください。また、IMAPを後から利用する場合は、smtpのパスワードを別途設定する必要があります (端末ソフト上でmailsetupなどを行なう)。ITCのページを参照してください。

後は、メールの送受信は簡単なのでわかると思います。ヘルプなどで使い方を勉強しましょう。

★自宅や手持ちのMacintoshからのメール接続

SFCは外部にAPOP接続やIMAP接続を可能としているので、自宅のコンピュータから自分の好きなメールソフトでみることができる。標準のMail以外に、たとえば、Eudora、Microsoft Entourage、Modila Thunderbird (SFCのMacintoshで標準で推奨されています) などがあります。同じように設定してみてください。

■大学内でのPowerBook、iBookによる接続とファイル転送

大学構内に自分のPowerBookやiBook、MacBookなどを持ち込んだ場合には、つぎのような2通りの接続があります。どちらも、DHCPの設定(自動的にIPアドレスが振られる)になっています。AppleTalkも使えますが、対応プリンタがどこにあるのかわからないので実質使えないかも知れません。

- AirMacによる接続(無線LAN)
- LANケーブルによる接続(メディアセンターなど)

ファイルの転送は、AppleShareが動いていれば、Finderの移動メニューから「サーバへ接続」で、サーバに接続し、ネットワークドライブとしてマウントさせることができます(アンマウントは、ドックのゴミ箱(イジェクトアイコンに替わります)にドラッグします)。

逆に「システム環境設定」から、「共有」の項目で「パーソナルファイル共有」にチェックを入れると、手持ちのマシンでAppleShareを動かすことができます。そのときは、利用しているネットワーク接続で「AppleTalk」がONになっていないといけません。それには手持ちのコンピュータで、「システム環境設定」の「ネットワークの項目」で、AirMacか内蔵Ethernetを選び、「AppleTalk」のタグがありますので、そこで、「AppleTalkを使用する」にチェックマークを入れます。このようにするSFCのMacintoshから、Finderの「移動」メニューの「サーバへ接続」で手元のコンピュータに接続することができます。このときに、「ブラウズ」ボタンを押してもたぶん表示されないとおもいますので、サーバアドレスの欄に「afp://自分のコンピュータのアドレス」を入力します。ちなみに、このアドレスがわからない場合は、上記のシステム環境設定のネットワークでTCP/IPのタグにIPアドレスが書かれています。端末ソフトで「hostname」コマンドでも調べることができるかも知れません。

通常のFTPなどを使う場合は、Transmit、Fugu、MacSCPなどのソフトウェアがありますので、各自でソフトウェアを探してみてください。以下のようなscp対応のソフトウェアも用意されています。

また、大学外部からの場合は、後で述べる端末ソフトウェアから、UNIXに設けられている、scpというコマンドを利用できます。これは、以下のように指定します。

```
scp コピー元      コピー先
```

コピー元とコピー先には、「ホストコンピュータ名:ファイルやフォルダ名」などの書式が指定できます。たとえば、report.rtfというファイルを、自分のマシンからSFC側のDocumentというフォルダの中に同じ名前転送する場合は、次のように指定します。ccz00, ccz01が公開されたサーバになっています。

```
scp report.rtf  ccz01.sfc.keio.ac.jp:Document
```

なお、Mac側のディスクドライブは、UNIXでは、/Volumes/というディレクトリに下にあります。

■メディアを介してのファイル転送

フロッピーディスク:既に過去の遺物となりました。Macintoshではサポートされていません。

USBフラッシュメモリ:これが一番楽でしょう。1000円ぐらいからあります。

CD-R、CD-RW:CD-RやCD-RWのドライブを持っている人は、それに焼いて持ってくる事ができる。これは、660MB~740MBの容量を持ちます。

DVD-R:DVD-Rに焼けるドライブがある場合には、焼いて持ってくる事ができます。4.7GBぐらい。

DVD-RW:λ21のMacintoshには、DVD-RWのドライブがついているものもあります。

iPodもしくは、FireWireのディスク:共通ドライバのものはFireWireのプラグに指すだけで、認識してマウントし

てくれます。20GB～160GBぐらいの容量で、映像などの取り込みも可能です。15,000円ぐらいから



★アンマウントの仕方

マウントした（接続した）メディアは、デスクトップ上にアイコンとして表示されます。これを接続解除するためには、このアイコンをDock上にあるごみ箱へドラッグオンする（このときだけ、上向き三角▲の形になります）か、Mac OS X10.4以降であれば、Finderのウィンドウの左側に出ているドライブの一覧の右横に同じような上向き三角▲が常時表示されていますから、それを押して接続を解除します。そうすると、USBやFirewireのドライブやフラッシュメモリなどは外しても構いませんし、CDやDVDなどは、エジェクト（排出）されます。

■端末ソフトウェアについて

SFCのコンピュータへは、UNIX端末ソフトウェアでリモートログインすることができます。λ21では、次のような端末ソフトウェアが利用できます。



★3つの端末ソフトウェア

ターミナル…標準のアプリケーション（ユーティリティフォルダの下にあります）ですが、日本語を用いることができません。

iTerm…フリーウェアで日本語も用いれます。item.sourceforge.netからダウンロードできます。接続毎に日本語の文字コードや使用するフォントをinfoというボタンから変更できますので、かなり便利です。

X11…X11のウィンドウシステムが立ち上がるのですが、λ21では、その中のktermが立ち上がるようになっています。これは、漢字などにも対応した設定になっています。

★sshによるリモートログイン

次のようなコマンドで、端末ソフトウェアから、コンピュータにリモートログインします。パスワードなども聞かれてしまいます。

ssh 相手のコンピュータ名 例： ssh ccz01.sfc.keio.ac.jp

★リモートログインして何をするのか？

だいたい、yppasswdで、パスワードを変更するのが関の山です。あとは前出のファイル転送のscpぐらいです。変更し終わったら、さっさと、logout（あるいはexit）で抜けてしまいましょう。

■Webブラウジングについて

★Webを見るソフトウェア

Internet Explorer とFirefox、およびSafariが用意されています。Firefoxは、表示が一番速いと言われています。ダウンロードは、IEやSafariには、専用のダウンロードマネージャが用意されていてわかりやすいでしょう。特に、Safariの場合は圧縮されたファイルや複数のファイルから構成されるアーカイブファイルを、自動的に解凍までしてくれます。



★ダウンロードフォルダの設定

λ21教室の環境では、ダウンロード先が書き込み不可のフォルダになっています。この場合は、PDF形式のファイルなどが見えませんし、授業で使うソフトウェアのダウンロードができません。これを、自分のフォルダに設定します。ホームフォルダの下に、「Downloads」というフォルダを作って、そこに設定します。

★ファイルヘルパー

NetscapeやInternet Explorerにおいては、どの形式のファイルをどのアプリケーション・プラグインで表示するかについての対応を、環境設定ダイアログの中で設定することが可能になっています。よく使うものについては、QuickTime Playerがほとんどの形式に対応しているのので、そちらにしておきます。PDFについては、Acrobat Readerがプラグイン組み込みで立ち挙がります。Safariでは、/Library/Internet Plug-Insの中に設定します。

★画像のダウンロード

Webページ上でControl+クリックをすると、コンテキストメニューが出てきて、画像をディスクにダウンロードをする項目を選べます。あるいは、Webページ上の画像を直接デスクトップにドラッグすると、デスクトップに画像ファイルがコピーされます。

★プロキシサーバを切った方が良い場合

SFCでは、インターネットのトラフィックを減少させるために、プロキシサーバを用いています。学生がよく見るWebページは、ページの運営元のサーバからではなく、一旦プロキシサーバの方に蓄積され、そちらのサーバから転送されています。しかし、頻りに更新されるページは、直接運営元のWebサーバから持ってくる必要がある。プロキシサーバの内容が古いことがあります。

Internet Explorerでは、アプリケーションメニューの環境設定で現れるダイアログの中から、プロキシ設定用のページを選び、プロキシ設定にチェックマークが入っているのを外します。その上で、該当ページを再読み込みボタンで、再読み込みすると更新されているページが現れます。

★要注目Webサイト

<http://www.apple.com/macosx/download.html>

ソフトウェアダウンロードの日本語と英語サイトです。アップルメニューの「Mac OS Xソフトウェア」からは、日本語のダウンロードサイトにいきますが、こちらは数が限られています。

<http://www.apple.co.jp/support>

Appleのサポート情報があります。Discussionでは、問題に出会ったときに助けてくれるBBSが用意されています。

■フリーズの対処

★アプリケーションを強制的に終了させる

Command+Option+Escapeで、最前面でフリーズしているアプリケーションを強制終了させることができるダイアログを表示させます。また、アップルメニューからは、「強制終了」という項目で同じことを行なえます。

★コンピュータをリセットする

PowerBook系は、Command+Control+電源ボタンでリセットできます。デスクトップでも同様にリセットできるかと思いますが、ただし、Mac OS Xは、オペレーティングシステム自体が止まることはほぼまったくありません（3年使っていて、カーネルパニックに会うのは、1度あるかないかぐらい）。

■ファイルの圧縮・解凍

複数のファイルを1つにまとめたい場合は、Macの場合は、SIT (Stuffit) 形式のファイルが頻りに用いられています。それ以外にも、UNIX Tar形式、WinZip形式、GNU ZIP形式のファイルなどがあります。



Stuffit Expanderは、解凍のサポートしてくれます。Stuffit Expanderは、ダウンロード時に自動的に立ち上がって

解凍してくれます。ZIP等の他の形式のファイルでも、解凍することができます。

DropStuffは、StuffItのStandard版をダウンロードすれば、ついてきます。ファイルをこのアプリケーション上にドラッグすれば、自動的に解凍してくれます。DropTar、DropZipもあります。

端末ソフトウェア上で圧縮・解凍を行ないたい場合は、tar、gzipなどのコマンドが用意されています。

■アプリケーションのインストール

自分で欲しいアプリケーションは、他の人に影響を与えず、インストールできます。ただし、商用版、シェアウェアなどは、ライセンスに注意して使うようしてください。商用版のソフトウェアは、だいたい、1つのコンピュータしかインストールできないようになっています。自宅のコンピュータにインストールしている場合は、λ21のコンピュータにはインストールしないようしてください。

また、インストーラで、管理者のパスワードを要求するものはインストールすることができません。



インターネットから、ダウンロードしたファイルなどは、以下のようになっています。自動的にアプリケーションが起動されない場合は、自分でアイコンをダブルクリックしてください。

.sitファイル

アーカイブになっていて、StuffIt Expanderで自動的に解凍されます。

.dmg (あるいは.img) ファイル

仮想的なディスクとしてマウントされます。DiskCopyが自動的に立ち上がり、マウントしてくれます。

.pkgファイル

インストーラが起動されます。

仮想ディスクから、単にコピーするだけでインストールが完了するものだけがインストールできると思っておいの方が良いでしょう。共通に用意して欲しい場合は、cns-request宛てに要求メールを丁寧に書きましょう。フリーウェアは、たぶん望みがかなうでしょう。シェアウェアは、ライセンスの問題があるので難しいでしょう。商用のソフトは、授業で必要なものの一部だけがなんとか用意されています。

■使い方がわからない

たいていのアプリケーションには、ヘルプメニューがついています。これを見て、自分自身で学ぶようしてください。また、Mac OS Xには、参考書がいっぱい出ていますし、Mac用の雑誌でも特集されています。それらを参考にしてください。